

## 第2回 清瀬市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者懇談会 会議録

日 時：令和元年9月30日（月）18:30～20:30

場 所：消費生活センター 会議室1・2

出席者：①委員7名

芦澤毅士委員、岩崎玲子委員、小俣みどり委員、春原孝之委員、西村真委員、星野泉委員、松村俊夫委員（五十音順）

②事務局5名

企画部長、企画課長、企画調整担当職員3名

欠席者：無し

《次第》

1. 開会
2. 報告事項（事務局） 前回議事録（案）の確認
3. 協議事項 まち・ひと・しごと創生総合戦略／庁内評価シートについて
4. その他

《配布資料》

資料1 : 前回議事録（案）

資料2 : まち・ひと・しごと創生総合\_委員意見アンケート集計表

《審議経過》

1. 開会 座長が進行。
2. 報告事項
  - 第1回懇談会の議事録について、内容の確認を実施。特に意見もなかったため、後日、清瀬市HPにアップすることとする。
3. 協議事項
  - シビックプライドとは、現状の住んでいるまちに関する市民評価を継続移住意向・他者推奨意向などでまとめ、構造的に分析したもの。清瀬市の調査結果では、愛着が高く自分たちの評価は高いが、外向けの要素や誇り、価値観が低くなっている。
  - 本日は、「清瀬市の方向性」「基本目標Ⅰ」に関する今後の方向性や、「基本目標Ⅰ」の庁内評価に関する意見を協議させていただく。

(1) 「2. 清瀬市の方向性について」

- 20代から30代の転出理由は、窓口でアンケートを実施していないため不明。定住してもらうためにも、子育て関連の施策は多いことをターゲットに認知してもらうよう発信を心掛け、施策を継続していくことが重要。
- 20代から30代の転出については、子育て世代だけでなく、職務都合での転勤や通勤時間短縮による引っ越しなども考えられる。他市の調査では、職務関係が一番多い。
- 清瀬市では、最近の傾向として、ターゲットとしていた20代から30代の転入増加傾向にあり、引き続き施策を継続することが必要だと考えられる。
- アンケートについては、一時的だと傾向がわからないため、複数年実施することも必要。
- 近居事業も評価されているように、「育った場所に戻ってくる」、「親の近くに住む」などのケースは多い。10代から20代の若い世代へのアピール、子育て世代を呼び込むなどは、必要。
- 清瀬市の自然環境の良さなどを含め、市外へ情報発信する方法をみなすなどして、社会増加が継続するような施策も重要。

(2) 「基本目標 I について」

- 庁内評価を参照していただいたうえで、施策の内容ではなく、今後の大きな方向性について、意見をいただくこととする。
- 事務局としては、委員のアイデア・意見に対して、議論して今後求められる意見が出されれば、それを踏まえて取り込む等を検討していく。
- 婚活事業については、結婚するということは重要だが、カップリングすることでも十分評価できる。
- 婚活事業は市報で募集し、1回10名程度、市内飲食店で開催。回数を重ねているがリピーターも増え、毎回同じ顔触れで進展性がない。規模が小さいため、限界がある。
- 合計特殊出生率は、市の人口ビジョンにて、国の目標に合わせて市としても1.8を目指して実施していくつもりである。ただ、子育て支援の成果をわかりやすくとらえることができる別の指標があれば、検討したい。
- 人口論の研究によると、結婚の割合が、少なからず出生率に影響しているとの報告がある。子育て支援だけでなく、婚活などの出会いの場は必要。
- 「誰もが憩える椅子のあるまち」について、椅子の設置数で効果検証を

行っているがピンとこない。例えば、設置した椅子を SNS でアップするなどして、イメージすることで好印象になる部分も多い。

- 清瀬市に住んだ当時、公園の少なさに驚いた。子供が遊べる場所が少ない。公園に雑草が多いため、手入れを頼むと順番待ちだったため、自分たちでやることを申し出ると断られた。住民と行政が協力して管理することが重要。住民は、住んでいる地域の公園というより、地域を超えて普段利用している公園を手入れしたいと考えている。  
(後日、所管課に確認したところ、申し出を受けた認識がなかったため、意思疎通が十分にできていなかった可能性がある。そういった申し出があった場合、是非お願いしたいとのことだった)
- 自治体や住んでいる地域で、手入れするという決め事を作るより、有志で対応できるような柔軟性を持たせておかないと継続が難しい。
- 「住民と協働」というキーワードをいれてみてはどうか。
- 以前は、公園が少なかったが、市が借り上げた神社の境内に遊具を準備し、子供たちは自由に遊べる環境が整備されていた。ただ、20年前から予算やセンシティブな事情から、撤収している。今は公園が増えたが雑草が多く、子どもが遊べる環境ではない。農業委員会では、国有地、私有地の広場などでは雑草を刈るように指示している。また、最近市内をパトロールし、雑草が多い場所を把握し、委員会から担当部署に連絡している。予算上難しいかもしれないが、雑草を刈れば、子供たちが遊べる環境をすぐにでも作れる状況だということ認識してほしい。
- 「雑草の管理をしてほしい」「市民の声を聞いて、一緒に作る」という意識を持ってほしいということがポイント。
- 「赤ちゃんのチカラプロジェクト」にて生命の大切さを学ぶことができ、その後の結婚意識や子育てに対する意識を醸成することが重要。その後の子供を育てる喜びや家族を作ることの喜びを伝えるために、妊婦さんへの定期的な訪問時を活用して、子供たちとの対談ができれば、10代からの取り組みになると考えている。
- 「特色のある学校づくり」については、各学校は、学校に置かれた教育資源を元に中長期ビジョンを作成している。その中で、各校の特色（五中であれば農業体験）を活かして、指導要領に示されている目標に繋げている。
- 学校の雰囲気が変わるのは、中長期ビジョンが変わるのではなく、校長の人柄などが関係していると思われる。校長は、数年で人事異動があるので、市民から見ると、中長期ビジョンなどが引き継がれていないと考えてしまうため、「校長」という表現は変更したほうがよい。また、指

導要領以外の学校の取り組みは、面白いと思う。内容は、市報にも記載されている。

- 子育て世代を引き留めて、育ててもらいたいという施策が考えられていると思う。ただ、評価基準に関しては、実体を掴みづらい（例 人数だけ記載があってもみえない）ので、難しい。例えば、経過年数変化や何%が利用しているかなどを提示してもらったほうが良い。つかみにくい情報もあるが、できるだけ情報として提示してほしい。また、評価内容は、正しく表現しないと伝わらない。例えば、ホームビジター件数は、「件」で記載されているが、これは「家庭数」である。1 家庭あたり、7 回訪問するので、訪問頻度は高く、他市平均を上回っている。その評価をするための情報がないので、評価しづらい。
- クーポン事業などは、利用者数も多く効果があるとのことだが、それによって人口増加、定着などとの因果関係を結びつけることは困難。委員としては、一つ一つの事業に対して、意見を述べていきたいが、本会議の目的からずれることも理解している。予算を使っているが、それが定着につながっているか判断しづらいので、評価が難しい。
- 清瀬市の子育ては、他市に比べても充実しており、評価されている。
- 5 年間での施策は評価できることもあり、大きな方向性は評価できるため、方向性は変えてなくて良いと思う。評価内容については、経過年数、全国平均、割合などの情報があれば、納得しやすいと思う。
- 清瀬市がもっている限られた資源を活かすことが重要。子育てしている人に子育ての良さを伝えることだけでなく、現在、子育てをしてない人に対して、どう PR していくか考えることも重要。
- 待機児童については、定員数を増やしながら進めているため、待機児童は維持できている状況。
- 方向性は基本変えなくてよい。子育て支援はやれることはやる。転入を増やす。市民との協働。企業のチカラを活かすことも重要。
- 子どもたちの学習機会の充実という項目は、保護者の満足度に対する指標はあるが、子供に対する指標も重要だと思う。ただし、市の方針としては、親世代をターゲットとしており、この指標になっていることは理解した。今後、10 代をターゲットとした意識を持つことも必要である。
- 市の規模が重要。人との距離感や活動のしやすさがあるので、現在の清瀬市はちょうどいい。今後は、これを活かすことが必要。

#### 4. その他

- 第 1 回懇談会会議録について、HP にアップすることを連絡。

- 次回の日程・場所について連絡。
- 次回は、基本目標Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを実施。第4回は、第2回、3回のご意見を集約した資料を事務局が準備し、会議体で確認いただくことを想定している。

以上